

兵庫県保険医協会 神戸支部研究会

# 院内で「元気力」アップ ～医療人のしゃべりコミュニケーション講座～

医療機関では、患者さんが安心して頼ることのできるサービスマインドをもった職員とのコミュニケーションが特に求められており、また院内での明るい雰囲気づくりが大切です。今回は、アナデューサー（アナウンサーとプロデューサーを組み合わせた造語）の田村氏を招き、「声の出し方」、おしゃべりのコツなどを講演していただきます。

日時 2009年11月14日(土)

午後2時30分～

会場 保険医協会会議室

講師 アナデューサー  
田村 正浩氏



### ＜略歴＞

- ・ABA青森朝日放送アナウンサー  
(平成3年8月～平成13年10月)
- ・KNB北日本放送アナウンサー  
(昭和61年4月～平成元年4月)
- ・タムラモータウン 代表  
(平成16年4月～)

※アナデューサーとは、アナウンサー業務に加え、営業、企画立案・プロデュース・取材実況など、ひとりで何役もこなせるのがアナデューサーです。

お問い合わせは、078-393-1817 田村・難波まで

FAX(078)393-1802へ(切り取らずに)ご返信ください

神戸支部「院内で元気力アップ」11/14(土)

研究会に( )人参加します。

( )区

医療機関名( ) 参加者氏名( )

電話( )

## 兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

222号

2009年10月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸777生命海岸通ビル5F  
兵庫県保険医協会神戸支部 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

### 第30回総会を開催

## 記念講演「睡眠時無呼吸症候群」に 医科・歯科の先生が50人



記念講演では質疑応答が活発に行われた

神戸支部は10月17日、協会会議室で第30回総会を開催し、50人が参加した。総会議事では田中孝明支部長が2008年度活動報告と2009年度活動方針を提案し、了承された(2ページに掲載)。記念講演は睡眠時無呼吸症候群をテーマに、神戸アドベンチスト病院副院長の森経春先生が「最近の知見と治療の実際」について、井尻歯科クリニック院長の井尻博和先生が「OA(マウスピース)の効果について」について講演した。  
＜感想文は次号掲載＞

### 投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常の診療にかかわることや主張など、テーマは問いません。医科・歯科連携のアイデアなど、お寄せください。

FAX 078-393-1802 または e-mail tamura@doc-net.or.jp 担当:田村まで

## 2008年度活動報告と2009年度活動方針

### <報告>

1、第29回支部総会(08/10/18)は、「外来におけるインシュリン指導について」をテーマに神戸大学附属病院の坂口一彦先生が講演し、68人が参加した。

支部研究会では「先生、咳が止まりません！と言われたら・・・？」(08/11/8、内科・循環器科長谷川医院院長 長谷川幹先生、27人)、「サッカー選手と“けが”―チームドクター診療の実際―」(09/1/24、県立加古川病院整形外科 原田俊彦先生、23人)、「胃癌対策の転換の必要性と診療現場での課題―早期発見から1次予防へ―」(09/9/12、神鋼加古川病院・消化器内科部長 寺尾秀一先生、25人)を開催した。また職員対象に行った接遇研修会(3/28、5/9)には2回で153人が、保険請求事務講習会(2008/10/18・19、2009/7/4・5、8/8・9)には3回で約250人が参加し、好評を得た。新たな取り組みとして医療安全管理講習会(4/11、大手前短期大学准教授 水原美智子先生)を開催し、102人が参加した。健康と医療について語り合う会は4回開催し、105人が参加した。

2、中央市民病院移転問題では、5月28日に30団体の賛同で「市民のための市民病院を守る会」(代表は田中孝明支部長、池内春樹理事長ほか)を結成し、移転凍結を求める署名運動に取り組んだ。8,150筆が寄せられ、10月15日に市公聴課に提出した。また市民病院問題をテーマにした神戸再生フォーラム主催の神戸市政フォーラムに協力し、田中支部長が司会を、小西達也副支部長・藤末衛評議員が報告者を務めた。

3、震災復興対策では、被災者ネットワークに協力するなど、協会・支部としても引き続き被災者支援に取り組んでいる。震災復興長田の会の運動にも引き続き協力を行っている。

4、神戸市内全区で結成されている社会保障推進協議会に参加し、各区での国保相談会の開催や国保料引き下げを求める請願署名など、地域で社会保障を守る取り組みを進めた。

5、「神戸市政を考える会」、「神戸再生フォーラム」など、神戸市政問題での運動に、参加・協力した。再生フォーラムのニュースを会員に配布した。

6、支部幹事会は第3木曜日を定例化して毎月開催した。

7、支部ニュースはNo.218からNo.222まで5回発行した。

### <方針>

1、学術研究会、医院経営研究会など会員の要求にそった研究会、事務講習会や接遇研修会など職員対象の研修会の開催に努める。また市民公開講座も随時開催する。

2、震災復興対策では、引き続き災害公営復興住宅へ転居した被災者の健康を守る取り組みなどをすすめる。震災復興長田の会など地域の運動にも参加し共同をすすめる。また震災15周年のメモリアル企画の成功に寄与する。

3、支部活動の活性化をはかるため幹事会への参加を広げる取り組みや、地域に密着した区単位の活動を強める。

4、各区の社保協や、介護保険をよくする会など、医療や福祉で共闘する団体への参加協力をすすめる。

5、国保、介護保険や結核問題など地域医療にかかわる重要な問題では、引き続き行政への働きかけなどをすすめる。

6、健康と医療について語り合う会への講師派遣など積極的に協力する。

7、支部ニュースは、会員を主体とした記事作りをすすめ、定期発行に努める。

8、政策部と協力し、神戸医療産業都市構想・医療特区問題、神戸中央市民病院の移転問題に取り組む。

9、引き続き神戸市政問題での運動に参加、協力する。

## 神戸支部研究会・感想文



講師の寺尾秀一先生(上)がピロリ菌と胃がんの関係を明らかにした。

## 菌除菌成功後の癌発生と胃粘膜萎縮度との関連に納得



神戸支部は9月12日に協会会議室で研究会「胃癌対策の転換の必要性と診療現場での課題―早期発見から1次予防へ―」を開催。神鋼加古川病院消化器内科部長の寺尾秀一先生を講師に25人が参加した。

胃癌は男女共に癌死の第二位に位置し全癌では未だ第1位に君臨しています。この現状を何とか減少に持ち込めないかと云う熱意をひしひしと感じる寺尾部長のお話でした。臨床現場で長年勤務されていたので講演のストーリーも明快でした。ピロリ菌が日本では中々市民権を得られなかった経緯・胃癌発生とピロリ菌の関係・ピロリ菌除菌による胃癌発生の抑制の論文を紹介され、ピロリ菌除菌成功後の癌発生と胃粘膜萎縮度との関連には特に注意を喚起されました。臨床医として監視を続ける大きなポイントです。

健康保険の適応が消化性潰瘍に限定されており寺尾部長は「ピロリ菌感染症」として取り扱うよう提言されています。消化性潰瘍・胃MALTリンパ腫・ITP・胃癌・

萎縮性胃炎などに適応疾患を広げるべく学会から行政に働きかけしている由。医療経済効果の面からも有用性は明らかです。胃X線検査・ペプシノーゲン法・内視鏡診断の有用性にも言及されました。粘膜の凹凸が目立ち、ひだが消し伸展が悪く表面が不整で太いとピロリ菌(+)が多いそうです。胃癌のリスクの把握の基本は①ピロリ未感染者②ピロリ除菌治療成功者③ピロリ感染持続陽性者を明確に区別する事を強調されて結びとされました。私の叔父(昭和40年56歳死去)・父(平成12年87歳死去)も胃癌でした。両者共ピロリが原因と寺尾部長は断言されました。目から鱗が落ち切らないのは私一人だけでしょうか？

<垂水区・宮武博明先生>